

九州大学百年史 第2巻 : 通史編 II

九州大学百年史編集委員会

<https://doi.org/10.15017/1801798>

出版情報 : 九州大学百年史. 2, 2017-03-31. Kyushu University
バージョン :
権利関係 :

九州大学百年史

第 2 卷
通史編 II

序

九州大学は 1903（明治 36）年創設の京都帝国大学福岡医科大学をその直接の前身として、1911 年、工科大学・医科大学よりなる 4 番目の帝国大学として創立されました。2011（平成 23）年に創立百周年を迎え、次の百年に向けて、常に未来の課題に挑戦する大学であり続けることを目指しております。

大学の使命は、学問をたゆまず進歩させ、科学・技術・文化など万象に接し、過去と未来を結ぶ時間軸の中で真理を探究し、その先へ向かって叡智の光を放っていくことです。『九州大学百年史』は、九州大学がこれまでどのようにその使命を果たしてきたのかを、内外に積極的に公開することを目的として編集されています。本書を通じて九州大学の歴史を広く知っていただくとともに、今後の九州大学のあり方について、示唆や指針を得る手がかりとしていただきたいと存じます。

『九州大学百年史』は通史編・部局史編・資料編から構成され、本巻は九州大学全体の歴史を示す通史編の第Ⅱ巻として公開されます。本巻では、1949（昭和 24）年に新制九州大学が発足してから、1994（平成 6）年教養部が廃止されるまでの時期を対象といたしました。九州大学では

すでに『九州大学五十年史』と『九州大学七十五年史』を刊行し、本巻の対象とする時期の大半について詳細な叙述がなされています。『九州大学百年史』編集にあたっては、『五十年史』『七十五年史』の内容を踏まえつつ、新たな視角を導入し、新たな資料を利用して、『五十年史』『七十五年史』をさらに発展させた内容とするよう努めました。

本巻が対象とする時期は、高度経済成長に伴って九州大学が急速に発展・拡大した時期を始点としています。そしてその後、大学紛争という大きな危機に見舞われ、その対応として改革が摸索される中で新たな大学像を見出そうとしていた時期にあたります。この間、薬学部・歯学部と、九州大学初の独立研究科である大学院総合理工学研究科が創設され、教養部廃止後には大学院比較社会文化研究科・数理学研究科も創設されました。さらに 1968（昭和 43）年には、のちに九州大学と統合する九州芸術工科大学も創立されています。

上に示しましたとおり、本巻が対象とする時期の後半は、現在につながる九州大学の改革に向けた摸索が始まった時期にあたります。その摸索の中で出てきたさまざまな改革構想の中には、その後実現したものも実現しなかったものもあります。本巻を通じてそれらをもう一度見直すことは、今後の九州大学のあり方を考えるうえで、有益な手がかりを与えてくれるはずです。

九州大学では現在、伊都キャンパスへの統合移転を進めています。キャンパス移転が現実的な課題となったのも本巻が対象とする時期からです。それは現在の筑紫キャンパスを中心とした地域への全学移転をめざしたものでしたが、実現しませんでした。その後、伊都キャンパスへの統合移転が決定されるわけですが、本巻は今後の大学キャンパスと地域社会との関係についても示唆を与えてくれるものであると存じます。

本巻の編集・執筆にあたっては、数多くの方々から資料の提供などのご協力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

2017（平成29）年3月

九州大学総長 久保 千春

凡 例

- 1 本巻「通史編Ⅱ」には1949年の新制九州大学の発足から1994年に教養部が廃止されるまでの九州大学全体の歴史を収録した。また併せて、2003年に九州大学と統合する九州芸術工科大学の歴史についても収録した。
- 2 本文の漢字表記は常用漢字・現代かなづかいを用いた。ただし人名等の固有名詞についてはこの限りではない。
- 3 引用資料については以下のとおりとした。
 - (1) 漢字を原則として常用漢字体に改めたほかは原文どおりの表記とした。ふりがな・傍点・傍線等は原則として省略したが、難読と思われる漢字についてはふりがなを付けた場合がある。また、句読点を補った場合はその都度註記した。
 - (2) 明確な誤字についてはこれを改め、特に註記はしなかった。
 - (3) 引用資料の一部を省略した場合はその部分に〔前略〕〔中略〕〔後略〕等と註記した。
 - (4) 資料中に現在では適当でない表記・表現等が含まれる場合があるが、歴史資料であることに鑑み、原則としてそのまま引用した。
- 4 年紀は西暦で示し、適宜元号を補った。
- 5 敬称は資料提供者名以外は省略した。敬語は用いないこととした。
- 6 本文中の図（写真を含む）・表には編ごとに番号を付した。例えば、第6編の第1図を「図6-1」のように示した。
- 7 資料編各巻に収録した資料については、収録した資料編の巻号と資料番号、頁数を示した。例えば資料編Ⅱの400番資料171頁を「資料編Ⅱ-400、p.171」のように示した。
- 8 本巻は官田光史が執筆した。

